

## B-90 立体成形に対する布地の適応性について (第4報)

戸板女短大 香取智恵子

目的 数回にわたり、布地の曲面成形を目標として、その布地の適応性について検討した。曲面を作り出す一適応性を検定する方法として、布地を逆V字形に引きよせることによつて生ずる曲面をアイロンで平面化し、その最大角度をもつて布地が曲面に適応できる限界を示した。これを立体曲面成形への適応性指数となることを提案し、更に評価法の形状効果に影響されない布地の固有値を得るための寸法条件を検討した。そして前回は、逆V字変形法が、布地の性質を把握するのに必要な再現性を持ち且つ布地の挙動について数値的表現の可能性を得た。今回は、この適応性の実験指数と、実物での立体成形のために行つたアイロン操作による測定値との結びつきについて検討した。

方法 実物成形の中では、スラックスの膝部分を選び、次のように行つた。試料はすべて紳士服地を選び大きさを $60^{\circ} \times 30^{\circ}$ とし各試料5枚づつ準備した。この試料を中二つ折りとし、二つ折りのままそのわの方を実験者側におき、逆V字形のアイロン操作とほぼ同様の方法で実験し、測定した。

結果 この測定値は、既に提案した立体曲面成形のための適応性指数と明らかに比例することが認められた。立体曲面成形には、バイアス伸長と共に、ここに新たにもう一つの指標を得ることができた。